

第 36 回 日 本 血 液 事 業 学 会 総 会

[報 告]

平成23年度 事業報告

平成23年度 収支決算

平成25年度 事業計画

平成25年度 収支予算

第37回日本血液事業学会総会長の選出

日本血液事業学会規約の一部改正及び投稿規定の一部改訂

第38回日本血液事業学会総会開催候補地

日本血液事業学会編集委員の選出

日本血液事業学会会長の選出

開 催 日：編集委員会・役員会・評議員会

平成24年10月16日(火)

会 場：日本赤十字社東北ブロック血液センター

平成23年度日本血液事業学会事業報告

◎会員数 2012年(平成24年3月31日現在)

A 会員	6,313 名
B 会員	1 名
C 会員	58 名
合 計	6,372 名

◎学会機関誌『血液事業』の発行

第34巻第1号	2011年 5月	6,790 部
第34巻第2号	2011年 8月	7,030 部
第34巻第3号	2011年11月	6,830 部
第34巻第4号	2012年 2月	6,830 部
合 計		27,480 部

◎第35回日本血液事業学会総会

第35回日本血液事業学会総会(総会長:南 陸彦先生 埼玉県赤十字血液センター所長)は2011年(平成23年)10月20日(木)～22日(土)の3日間、埼玉会館(埼玉県さいたま市)において、「新たな時代に向けて—ひと・いのち・こころ・みらい—」をテーマに掲げて開催し1,064名(スタッフ等除く)が参加した。

学会総会は、第18回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウム、平成23年度全国大学病院輸血部会議と同時期開催とし、血液を提供する血液センター側と、それを使用する病院側が一同に会し行われた。

特別講演は2題、特別講演1「血液事業の課題」演者:日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所、十字猛夫氏・特別講演2「医薬品医療機器総合機構(PMDA)の現状と方向性並びにPDMAから血液事業への期待」演者:独立行政法人医薬品医療機器総合機構、近藤達也氏が行われた。

教育講演は6題、教育講演1「血液型—最近の話題—」演者:東京都赤十字血液センター、内川 誠氏・教育講演2「各種製造所内に侵入・発生する昆虫等について」演者:日本環境衛生センター東日本支局環境生物部、武藤敦彦氏・教育講演3「医薬品製造業者としての血液センターとGMP調査について」演者:独立行政法人医薬品医療機器総合機構、櫻井信豪氏・教育講演4「アルブミン製剤の適正使用について」演者:富山大学附属病院輸血・細胞治療部、安村 敏氏・教育講演5「HIV感染の最近事情」演者:国立国際医療センター、岡 慎一・教育講演6「急性期医療における免疫グロブリン製剤」演者:名古屋大学大学院医学系研究科救急・集中医療医学分野、松田直行氏が行われた。

総会長シンポジウムは「危機管理」として、1「安全と安心」演者:埼玉県赤十字血液センター・南 陸彦氏、2「リスクマネジメント」演者:日本ヒューマンファクター研究所・本江 彰氏、3「病院組織における安全管理」演者:横浜市立大学附属病院医療安全管理学・橋本廸生氏、4「血液事業における危機管理」演者:日本赤十字社血液事業本部・長谷川秀弥氏が行われた。

シンポジウムでは、シンポジウム1「広域運営体制」、2「危機的出血への対応」、3「広域的運営体制下における地域センターのあり方」、4「献血者の確保対策」、5「東日本大震災、その時血液事業はどう動いたか」の5題と、ミニシンポジウムとして「東日本大震災、被災センターか

らの報告」が行われた。

ワークショップでは、ワークショップ1「献血者受入から採血まで」、2「医療機関との連携」、3「輸血副作用発症機構の解析」、4「合同輸血療法委員会」、5「輸血感染症への対策」、6「輸血検査の現状と課題」、の6題が行われた。

一般演題215題(口演105題、ポスター110題)が発表された。

また、第35回日本血液事業学会総会/平成23年度全国大学輸血部会議/第18回日本輸血・細胞治療学会秋季シンポジウムの三者合同によるシンポジウム「献血者減少への施策」が開催された。

最終日には、市民公開講座が開催され、「発災、その時あなたはどう動きますか」が行われた。

平成 23 年度日本血液事業学会収支決算書

(単位：円)

収 入		支 出	
1. 会費収入	29,451,000	1. 総会費	23,446,387
		2. 役員会費	10,500
2. 補助金	0	3. 評議員会費	0
		4. 編集委員会費	0
3. 購読料収入	490,000	5. 印刷製本費	17,162,747
		6. 職員費	2,447,280
4. 利子収入	2,564	7. 旅 費	167,880
		8. 通信運搬費	1,460,427
5. 雑収入	14,238,464	9. 消耗品費	11,701
		10. 印刷費	0
6. 当期収支差額	5,825,534	11. 雑 費	0
		12. 租税公課	5,181,040
		13. 雑損失	120,000
計	50,007,962	計	50,007,962

当期収支差額 △5,825,534円

前年度繰越額 4,787,366円

翌年度繰越額 △1,038,168円

前記決算のとおり相違ありません。

平成24年3月31日

日本血液事業学会

会長 池 田 久 實

前記決算は正確であることを認めます。

平成24年7月18日

日本血液事業学会

会計監事 稲 葉 頌 一

会計監事 南 陸 彦

平成 25 年度日本血液事業学会事業計画

◎会員数

A 会員	6,896 人
B 会員	1 人
C 会員	60 人
合 計	6,957 人

◎機関誌「血液事業」の発行

第 36 巻第 1 号	2013 年	5 月発行	6,900
第 36 巻第 2 号	2013 年	8 月発行	7,300 (抄録集)
第 36 巻第 3 号	2013 年	11 月発行	6,900
第 36 巻第 4 号	2014 年	2 月発行	6,900
合 計			28,000

◎第 37 回日本血液事業学会総会

第 37 回 (平成 25 年度) 日本血液事業学会総会長の選出

総会長 高 本 滋 先生
(日本赤十字社北海道ブロック血液センター所長)

(規約第 11 条第 3 号)

総会の開催にあたっては会長が評議員会にはかって総会長を委嘱する。

第 37 回日本血液事業学会総会 (総会長 : 高本 滋 先生 日本赤十字社北海道ブロック血液センター所長) は、2013 年 (平成 25 年) 10 月 21 日 (月) ~ 23 日 (水) に札幌コンベンションセンター (札幌市) を会場として開催する。

平成25年度日本血液事業学会収支予算書

(単位：円)

収 入		支 出	
1. 会費収入	28,457,000	1. 総会費	24,140,000
		2. 役員会費	20,000
2. 補助金	15,000,000	3. 評議員会費	20,000
		4. 編集委員会費	20,000
3. 購読料収入	500,000	5. 印刷製本費	23,800,000
		6. 職員費	2,500,000
4. 利子収入	20,000	7. 旅 費	400,000
		8. 通信運搬費	2,000,000
5. 雑収入	12,750,000	9. 消耗品費	17,000
		10. 印刷費	0
		11. 雑 費	10,000
		12. 租税公課	3,500,000
		13. 予備費	300,000
計	56,727,000	計	56,727,000

◎日本血液事業学会規約の一部改正

日本赤十字社血漿分画センターの削除

- ・平成24年10月1日から日本赤十字社血漿分画センターは、社団法人日本血液製剤機構として業務を開始されたことから、日本血液事業学会規約第4条本学会の会員は次の者とする。
(1)文中の日本赤十字社血漿分画センターを削除する。

事務部会、技術部会の削除

- ・日本血液事業学会規約の第5条に本学会に事務部会、技術部会を置くと定められているが、平成17年度以降、部会長は定められてなく現在に至っている。現在、部会の必要性がないことから規約の第5条全文削除と第6条(5)部会長2名(全文削除)、第7条(3)幹事及び部会長(部会長を削除)、第9条(4)部会長は幹事の中から会長が委嘱する(全文削除)、第11条2(および部会を削除)。

◎血液事業投稿規定の一部改訂

機関誌「血液事業」への投稿論文や、日本血液事業学会での研究発表における献血者および患者のプライバシー保護に関するガイドラインの制定に基づき、投稿規定の一部改訂を行う。
(血液事業投稿規定の執筆要項10)に追記する)

献血者や患者のプライバシー保護に配慮し、献血者や患者が特定されないよう以下項目について留意しなければならない。

1. 献血者や患者個人が特定可能な氏名、採血番号、製造番号、入院番号、イニシャルまたは「呼び名」は記載しない。
2. 献血者や患者の住所は記載しない。ただし、副作用や疾患の発生場所が病態等に関与する場合は区域までに限定して記載することを可とする。(神奈川県、横浜市など)
3. 日付は、臨床経過を知る上で必要となることが多いので、個人が特定できないと判断される場合は記載してよい。
4. 他の情報と診療科名を照合することにより患者が特定され得る場合は、診療科名は記載しない。
5. すでに他院などで診断・治療を受けている場合、その施設名ならびに住所地を記載しない。ただし、救急医療などで搬送もとの記載が不可欠の場合この限りではない。
6. 顔写真を掲示する際は目を隠す。眼疾患の場合は、顔全体が分からないように眼球のみの拡大写真とする。
7. 症例を特定できる生検、剖検、画像情報に含まれる番号などは削除する。
8. 以上の配慮をしても個人が特定できる可能性がある場合は、発表に関する同意を献血者や患者自身(または遺族か代理人、小児では保護者)から得る。
9. 遺伝性疾患やヒトゲノム・遺伝子解析を伴う症例では、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」(文部科学省、厚生労働省及び経済産業省：平成13年3月29日、平成16年12月28日全部改正、平成17年6月29日一部改正、平成20年12月1日一部改正)による規定を遵守する。
10. 疫学研究では、「疫学研究に関する倫理指針」(平成14年6月17日、平成19年8月16日

全部改正，平成20年12月1日一部改正)による規定を遵守する。

11. 臨床研究では，「臨床研究に関する倫理指針」(平成15年7月30日，平成20年7月31日全部改正，平成20年厚生労働省告示第415号平成21年4月1日より施行)による規定を遵守する。

※9～11の詳細は，厚生労働省のホームページ「研究に関する指針について」を参照のこと。

第38回(平成26年度)日本血液事業学会総会候補地

(予 定) 日本赤十字社
中四国ブロック血液センター管内

日本血液事業学会編集委員の選出

高 本 滋 先生
(日本赤十字社北海道ブロック血液センター所長)

河 敬 世 先生
(日本赤十字社近畿ブロック血液センター所長)

土 肥 博 雄 先生
(日本赤十字社中四国ブロック血液センター所長)

以上3名委嘱する

(編集委員会運営要綱第4条第2号)

編集委員は、日本血液事業学会役員および評議員の推薦により会長が委嘱する。

日本血液事業学会会長の選出

日本赤十字社
関東甲信越ブロック血液センター
所 長 南 陸 彦 先生
(平成24年10月16日評議員会にて承認)

日本血液事業学会総会開催状況

回	開催年月	開催場所	総会長		総会事務局
1	1977(S.52). 7	宮城県(仙台市)	所長	千葉修次郎	宮城県赤十字血液センター
2	1978(S.53). 6	東京都(渋谷区)	所長	大林 静男	日本赤十字社中央血液センター
3	1979(S.54). 7	神奈川県(横浜市)	所長	岩田 昌一	神奈川県赤十字血液センター
4	1980(S.55). 7	兵庫県(神戸市)	所長	今井 英世	兵庫県赤十字血液センター
5	1981(S.56). 7	岡山県(岡山市)	所長	西崎太計志	岡山県赤十字血液センター
6	1982(S.57). 7	静岡県(静岡市)	所長	野口 正輝	静岡県赤十字血液センター
7	1983(S.58). 9	福岡県(福岡市)	所長	吉成 章之	福岡県赤十字血液センター
8	1984(S.59). 9	大阪府(大阪市)	所長	田中 正好	大阪府赤十字血液センター
9	1985(S.60). 9	京都府(京都市)	所長	細井 武光	京都府赤十字血液センター
10	1986(S.61). 9	宮城県(仙台市)	所長	赤石 英	宮城県赤十字血液センター
11	1987(S.62). 9	愛知県(名古屋市)	所長	福田 常男	愛知県赤十字血液センター
12	1988(S.63). 9	広島県(広島市)	所長	宗像 寿子	広島県赤十字血液センター
13	1989(H. 1).10	熊本県(熊本市)	代行	前田 義章	熊本県赤十字血液センター
14	1990(H. 2). 9	福島県(福島市)	所長	渡辺 岩雄	福島県赤十字血液センター
15	1991(H. 3). 9	奈良県(奈良市)	所長	市場 邦通	奈良県赤十字血液センター
16	1992(H. 4). 9	東京都(北区)	所長	天木 一太	東京都赤十字血液センター
17	1993(H. 5). 9	北海道(札幌市)	所長	関口 定美	北海道赤十字血液センター
18	1994(H. 6). 9	石川県(金沢市)	所長	大川 力	石川県赤十字血液センター
19	1995(H. 7). 9	大阪府(大阪市)	北大阪所長	小川 昌昭	大阪府赤十字血液センター
20	1996(H. 8). 3	千葉県(千葉市)	所長	十字 猛夫	日本赤十字社中央血液センター
21	1997(H. 9). 9	宮崎県(宮崎市)	所長	新宮 世三	宮崎県赤十字血液センター
22	1998(H.10). 9	北海道(旭川市)	釧路所長	中澤 英輔	北海道赤十字血液センター
23	1999(H.11). 9	新潟県(新潟市)	所長	小島 健一	新潟県赤十字血液センター
24	2000(H.12). 9	岡山県(倉敷市)	所長	喜多嶋康一	岡山県赤十字血液センター
25	2001(H.13). 9	愛知県(名古屋市)	所長	小澤 和郎	愛知県赤十字血液センター
26	2002(H.14). 9	福岡県(福岡市)	所長	前田 義章	福岡県赤十字血液センター
27	2003(H.15). 9	京都府(京都市)	所長	横山 繁樹	京都府赤十字血液センター
28	2004(H.16). 9	神奈川県(横浜市)	所長	諏訪 城三	神奈川県赤十字血液センター
29	2005(H.17).10	宮城県(仙台市)	所長	舩山 完一	宮城県赤十字血液センター
30	2006(H.18).10	北海道(札幌市)	所長	池田 久實	北海道赤十字血液センター
31	2007(H.19).10	香川県(高松市)	所長	内田 立身	香川県赤十字血液センター
32	2008(H.20).10	大阪府(大阪市)	所長	柴田 弘俊	大阪府赤十字血液センター
33	2009(H.21).11	愛知県(名古屋市)	名誉所長	神谷 忠	愛知県赤十字血液センター
34	2010(H.22). 9	福岡県(福岡市)	所長	清川 博之	福岡県赤十字血液センター
35	2011(H.23).10	埼玉県(さいたま市)	所長	南 陸彦	埼玉県赤十字血液センター
36	2012(H.24).10	宮城県(仙台市)	所長	伊藤 孝	宮城県赤十字血液センター
37	2013(H.25).10	北海道(札幌市)	所長	高本 滋	北海道ブロック血液センター